

## 第3次ごみゼロプランの中間検証と後期に向けたプランの改定について(概要資料)

### 1. 概要

第3次ごみゼロプラン(計画期間:平成29年度~令和8年度)の前期が令和3年度で終了したため、中間検証を行うとともに、後期に向けてプランの改定を行うもの。

### 2. 検証機関等

- ◆ごみ減量・リサイクル等推進協議会(学識経験者・市民・事業者・清掃事業者・行政で組織)で幅広い視点から検証・見直しを実施。(令和3年10月15日~)
- ◆廃棄物減量等推進審議会にて素案等の諮問に対して答申
- ◆パブコメの実施(令和5年1月実施。3名27件54項目)

### 3. 第3次ごみゼロプランの前期での主な成果

- ◆プラスチック類ごみの分別回収・資源化の実施
- ◆可燃ごみの広域処理化
- ◆レジ袋有料化の実現

### 4. 主な改定ポイント

#### (1) 数値目標の改定

- ◆総資源化率:目標値から参考値に変更。  
理由:資源物(雑誌類、プラ、焼却残灰)の減少や事業者による資源回収の拡大により、行政回収量の減少が見込まれ、最近の動向では総資源化率を参考値とする考え方が出てきたため。

#### (2) 各施策の行動計画等

##### ①ごみの更なる減量

行政回収から民間回収へのシフトの推進。レジごみ袋の社会実験。指定収集袋のデザイン変更。ジモティースポット日野の設置等リユースの推進。事業者主体のごみ減量の取組の働きかけ。ごみ減量・リサイクル等推進協議会で重点項目の進め方を検討。事業系ごみ削減に向けた普及啓発の実施。

さらなる生ごみの資源化や粗大ごみのリユース等を推進し、脱焼却を含む施策の検討とごみゼロ社会(脱埋立(達成済)と脱焼却)の実現を目指す。

##### ②適正なリサイクルの推進

- ・分別徹底による資源化の促進:組成割合を示す。ごみ出し前の点検呼びかけ等を広報。
- ・生ごみ減量資源化:様々なコンポストの活用。生ごみリサイクルサポーターの見直し。河川

防災ステーションを生ごみ堆肥化事業の拠点化。事業系食品廃棄物減量の新取組。  
・プラごみ・剪定枝等の減量リサイクル:ウォータースタンド設置。剪定枝の無料受取の継続。  
埋立てごみゼロの維持。リサイクルよりもリユースに力を入れていく(費用対効果の面で)。

③ごみ減量の意識向上に向けた普及啓発・情報提供

- ・広報等は常に改善を図り、ごみ減量の周知徹底を図る。(優良事業者の取組等も紹介)
- ・環境学習等も充実し、動画配信等の時代にあった方法を検討。
- ・「ごみ減量・リサイクル等推進協議会」での意見交換やごみカフェの設置を検討する。

④広域連携の推進

- ・3市の可燃ごみ処理施設の設置を目指す目標が達成したため、施設の安定稼働や3市でのごみ減量・分別の継続していく。
- ・3市市民会議のごみ減量等の取り組みや地元地域とのつながりを大切にしていく。

⑤ごみの適正処理の推進

プラごみの分別回収や資源化施設の建設が完了したため、分別回収の継続や資源化施設の安定稼働、旧施設の安全・安心な解体に目標をシフト。